

## COVID-19の犯罪を暴く

COVID-19が生物兵器として極秘裏に開発され、世界征服のために各段階が綿密に計画されたことを明らかにする、約60年にわたる複雑なタイムラインを探検しよう。

[ジョセフ・マーコラ博士](#)

2023/12/09



<https://www.bitchute.com/video/MMXfRHgFybqK/>

MUST SHARE - デヴィッド・マーティン - コヴィド19世の犯罪を暴く - スイス・ドルナハでの講演 - パート1/2  
初出: 2023年10月20日 06:46 UTC

[Awake and Aware](#) Sept 12 2023 Live Stream - 人智学協会 in Dornach Switzerland at Eurythmeum

source:<https://x.com/DrDMartinWorld/status/1714628876838551779?s=20>

### ストーリー一覧

- > 2023年10月の講演で、デビッド・E・マーティン博士は、SARS-CoV-2が58年前から計画されていた人工の生物兵器であることを知る方法を詳しく述べている。
- > 「コロナウイルス」と呼ばれるウイルスは1965年に初めて報告された。年後、米国と英国は、米国の生物兵器プログラムの一環として、健康な英国軍人に米国産コロナウイルス病原体を感染させる交換プログラムを開始した。
- > 1992年、ノースカロライナ大学チャペルヒル校のラルフ・バリックは、かつて腸や肺に感染していた病原体をキメラで改変し、心臓に感染させて心筋症を引き起こした。この研究は、HIVワクチンの製造に向けた努力の一環であった。
- > 2000年11月、ファイザーは初のスパイク・プロテイン・ワクチンの特許を取得した。2000年から2019年にかけて、この技術を使ったワクチン試験は致死的であることが証明されたが、2020年夏、SARS-CoV-2予防注射の臨床試験はそのままヒト試験に移行した
- > mRNAスパイク・タンパク質が生物兵器であると公言されたのは18年前のことである。

2005年、DARPAとThe Mitre Corporationが主催した会議で、mRNAスパイク・タンパク質は「生物兵器を可能にする技術」、すなわち生物兵器として賞賛された。

上のビデオは、デイビッド・E・マーティンが2023年10月下旬にスイスのドルナッハで行った講演を収録したものです、博士が2023年10月下旬にスイスのドルナッハで行った講演である。マーティンは国家情報アナリストであり、言語ゲノム学（通信の意図を判断できるプラットフォーム）を開発したIQ100インデックスの創設者でもある。

この技術により、マーティンは何百万もの特許をスキャンし、見直すことができるようになった。<sup>23</sup>その結果、SARS-CoV-2が58年前から計画されていた人工の生物兵器であることを決定的に証明した。

## 計画的なパンデミックを明確に認める

今では習慣となっているように、マーティンは講演の冒頭で[エコヘルス・アライアンス](#)のピーター・ダスザック会長の言葉を引用する。2015年3月27日、大災害に対する医療と公衆衛生の備えに関するフォーラムで、ダスザックは次のように指摘した。<sup>4</sup>感染症の危機は、緊急事態の閾値に達しない限り、無視される傾向がある。

「危機を乗り越えて資金基盤を維持するためには、[汎インフルエンザワクチン](#)や[汎コロナウイルスワクチン](#)のようなMCM（医療対策）の必要性に対する国民の理解を深める必要があります」とダスザック氏は付け加えた：<sup>5</sup>

「重要な原動力はメディアであり、経済は誇大広告に従う。私たちは、誇大広告をうまく利用して、本当の問題に取り組む必要がある。投資家は、プロセスの最後に利益を見出すことができれば、それに応じるだろう。

マーティンはこうコメントしている：

"これは、2019年後半にほとんどの人々の心の中で公式に始まった世界的なテロキャンペーンの理由が、テロ、共謀、強制、そして最終的には殺人という計画的なものであったことを、何の躊躇もなく明確に述べた告白である。この引用は、大西洋のどちらにしようとして、4つの重罪を認めたことになる。"

### 2015年にダスザックが認めた重罪とは？

そしてマーティンは、2015年のその引用の中で、ダスザックが複数の異なる重罪を認めていることを説明する。要約すると

- "危機を超えて資金基盤を維持するために..."- ダスザックはここで、公衆衛生の拡大や恩恵について語っているのではない。また、この発言がなされたときに起きていた実際の健康危機についても言及していない。

マーティンによれば、「危機とは、世界保健機関（WHO）が後援する生物兵器プログラムへの資金提供が削減されたことだ。危機は健康の危機ではなかった。生物兵器プログラムのための資金が底をついたのだ。これは2つの犯罪である。

- 「重要な原動力はメディアであり、経済は誇大広告に従うだろう」。- マーティンによれば、これはさらに2つの犯罪を認めたことになる。「ハイプ」とは心理的恐怖の

ことである。言い換えれば、心理的な恐怖が十分に大きければ、資金は後からついてくる。

誇大広告に従う経済学はインフォームド・コンセントではない」とマーティンは指摘する。なぜなら「誇大広告に従う経済学は、インフォームド・コンセントではないからだ」とマーティンは指摘する。資金を確保するために心理的恐怖を利用することは、「詐欺の意図」を意味する。

マーティンはこう説明する：王室法では、契約に伴うリスクを相手に知らせないことを『詐欺的譲渡』と呼んでいます。なぜこれが重要なのか？

詐欺的譲渡が法律においてこれほど重要な原則である理由は、……。[詐欺行為を行った当事者は、単に損害を賠償するだけでなく、法律の下で要求されるからである。

彼らの法的義務は、損害を受けた当事者を損害前の状態に戻すことだ。痛みと苦しみの代償として2、3ドルを支払います』とは言わない。損害前の状態に戻すことが法的に義務付けられているのです」。

つまり、繰り返しになるが、詐欺的譲渡に関しては、金銭的補償は法的基準ではない。詐欺に関与した当事者は、詐欺された人を再び完全にすることが法的に要求される。それがなぜ重要なのか？なぜなら、「私たちは求めるべきものを求めてさえいないからです」とマーティンは言う。

注射の後に患った心筋炎を治せるドルはあるのか？あるいは、あなたの母親を殺しているターボガン？あるいは父親を殺した血栓？「法律に従えば、金銭的な補償ではなく、ダメージを受ける前の状態に戻すことを勧めるでしょう」とマーティンは言う。

- ・ "本当の問題にたどり着くためには、誇大広告を利用する必要がある"- 本当の問題とは何か？投資家に資金を提供してもらうこと。"プロセスの最後に利益が見える"のであれば、投資家はそうするだろう。言い換えれば、心理的な恐怖が人々を注射を受けるために並ばせることが確認できれば、投資家は懐を開くだろう。

## 撲滅された感染症になぜワクチンが必要なのか？

マーティンは、2014年から2017年まで実施されていた米国におけるコロナウイルスの機能獲得に関するモラトリアム期間中に、汎コロナウイルスワクチンプログラムが実際に公に発表されたことを指摘する。<sup>6</sup>

「私たちが世界的なテロ計画である汎コロナウイルスワクチンを発表している間に、その機能モラトリアムは進行していたのです。

「撲滅された病気に対するワクチンが、モラトリアムの期間中に必要なのでしょうか？理論上、存在しないものに対するワクチンが必要な理由がある可能性はゼロなのに。それは、私たちがワクチンを作っていたからです。ピーター・ダザック...それで自由をハイジャックしようとしていたんだ」。

## SARS-CoV-2の58年間のタイムライン

マーティンの説明によれば、「コロナウイルス」と呼ばれるウイルスが最初に報告されたのは1965年のことである。その2年後

米国と英国は、健康な英国軍人に米国産コロナウイルス病原体を感染させる交換プログラムを開始した。

1992年、ノースカロライナ大学チャペルヒル校のラルフ・バリックは、かつて腸や肺に感染していた病原体をキメラで改変し、心臓に感染させて心筋症を引き起こした。

「マーティンは言う。「とマーティンは言う。  
これはお腹の中の小さな不具合で、鼻の中の小さな鼻水なんだ。これを心臓にぶつけて、.....心筋症、つまり心臓に起こりうる最も致命的な炎症のひとつを作り出せるかどうか試してみよう....."」

2000年11月、ファイザーは最初のスパイク・プロテイン・ワクチンの特許を取得した。つまり、『ワープ・スピード作戦』は本当に数ヶ月でスパイク・プロテイン・ワクチンを開発したわけではないのだ。その研究は2000年後半から行われていた。つまり、COVID注射が発売されるまでに19年の歳月がかかっていたのだ。

問題は、この19年間、コロナウイルスワクチンがどれも効かなかったことだ。「2000年11月から[2019年]までのすべての試験で、実験用の注射を打った動物はすべて死んでいました」とマーティンは言う。

にもかかわらず、カリフォルニア大学サンフランシスコ校の施設審査委員会は2020年夏、コロナウイルスワクチンの臨床試験は"ストレート・トゥ・ヒューマン・プロトコール"であると告げられた。つまり、予備的な動物実験を経る必要はないということである。

マーティンが指摘したように、動物を殺すという安全データがあれば、かなり不都合だろう。いくらチーズバーガーを無料で提供しても、誰もそんな注射を打つために列を作らないだろう。

## SARSは兵器だったのか？

それだけでも十分不穏なのだが、まだある。マーティンは続ける：

「この犯罪の背後には、別の犯罪があるはずだ。ひとつひとつは、それ自体が恐ろしい。しかし、それらを合計すると、もっと、もっと、もっと、もっと問題になる。

それでは、2002年に出願された素晴らしい特許の誕生に話を移そう。

新種のウイルスが存在したのか、新種の病気が存在したのか？ 事実上、どちらもなかったということにしておこう。

新種のウイルスは存在しない。2002年に出願された特許をもとに設計されたさまざまな生物兵器がある。『コロナウイルス』。

では、このフレーズは何を意味するのか？ 感染性複製欠損症。「感染性」とは、体内の細胞を標的にして、注射するものが細胞内に入るようにすることを意味する。

「複製欠損型」とは、注入した情報がその細胞に感染することはあっても、複製して他の細胞に拡散することはないことを意味する。つまり、生物兵器そのものは、標的を攻撃することはあっても、増殖することはないように兵器として設計されているということだ。

2002年と2003年にSARS1.0が発生したとき、いたるところで死者が出ると言われた。[しかし、パンデミックにしようとして懸命に努力しても.....900人しか山から追い出すことができなかった。それが世界的なパンデミックだった。なぜか？ 兵器が機能したからだ。

もし誰かが毒性物質にさらされれば、その人は死ぬ。SARS1.0のような感染が起こらなかったのは、複製しないように設計されたものを感染させることはできないからだ。

ウイルスの定義とは何か？ ウイルスは複製するタンパク質配列である。これは何だと思う？ 複製不全とは、ウイルスからウイルスを取り除いたということだ。それは複製装置ではなかった。実際は兵器だったのだ。

デーブ、君は一線を越えている、兵器だなんて言わないでくれ。兵器じゃないんだ。武器と呼ぶと、人を殺す人たちを怒らせることになる。まあ、何だと思う？

もしあなたが気分を害しているなら、私は気にしない。

**mRNAスパイク・プロテインは生物兵器である**



実際、mRNAスパイク・プロテインは、18年前に生物兵器として公に説明された。2005年、アメリカのDARPAとMitre社が主催した会議で、mRNAスパイク・プロテインは "生物兵器を可能にする技術" と賞賛された。それは公的なものなのだろうか？

健康関連のアプリケーション？ いや、マーティンが主張するように、"生物戦を可能にする技術" とは生物兵器のことだ。

「だから、私は生物兵器だと言っているのではありません。生物兵器だと言っているのではありません。

「犯人は2005年にそう名乗り、二重参入予算で報いを受けた。ファウチには国防総省のパンデミック対策プログラムからの第二の小切手帳があった。それは何だったと思いますか？ 同額の非競争助成金である。

ヨーロッパでは、これは反競争法違反だ。競争も透明性もないまま、公的助成金を倍増させることは許されない。

1000万ドル

公平であったからではなく、オープンであったからでもなく、透明であったからでもなく、実際に助成金競争があったからでもなく、一方の決定によって、もう一方が事実上、資金をマッチさせたのだ。それが始まったのは2005年であり、2019年ではない。"

## 大手製薬会社がノースカロライナ州の全大学を所有

この2年間で、ダスザックがコロナウイルスの機能研究のために、中国の武漢ウイルス研究所（WIV）に数百万ドルもの研究費を流していたことを暴露する情報がたくさん出てきた。しかし、これは氷山の一角にすぎない。マーティンによれば、少なくとも1億4100万ドルがノースカロライナ大学チャペルヒル校が主導する米国の生物兵器プログラムに流れたという。マーティンは続ける：

「私がノースカロライナ大学チャペルヒル校を貶めることを最も熱心に提唱してきたのには、それなりの理由がある..... その理由とは、1984年、大学だけでなくノースカロライナ州が自らを..... グラクソ・スミスクライン社とウェルカム社に売り渡したからである。グラクソ・スミスクラインとウェルカム社に。

「リサーチ・トライアングル・インスティテュート」や「リサーチ・トライアングル・パーク」という言葉を耳にしたことがあるからだ。

- ノースカロライナ大学チャペルヒル校、デューク大学、ノースカロライナ州立大学の3校

は、ノースカロライナ州が大学をグラクソ・スミスクライン・ウェルカム社に売却したからである。

AZTは特許を取得していたため、AZTがHIVの治療薬として選ばれるようにするためには、ゼロ地点となる米国の州が必要だった。1984年、私たちはHIVを発明した：AZTである。

ここに、ほとんど知られていない興味深い事実がある。1985年と1986年のアンソニー・ファウチのビデオを見ると、彼はHIVワクチンの開発について話している。しかし、彼は突然グラクソ・スミスクライン社からドアをノックされ、『おい、ファウチさん、AZTの特許が切れるまでそのプロジェクトを始めるな』と言われた。

これは作り話ではない。実際にビデオで見ることができる。不思議なことに、1991年から1996年まで、ウェルカムのAZT抗議のおかげで、HIVの唯一の治療法はAZTであり、AZTの特許と残りの特許期間が失効する可能性があると言われた。

グラクソ・スミスクライン・ウエルカムは、HIVに感染しているとされる患者を死に至らしめたものの特許技術に対して、すべての資金を得ることができた。

雇われ殺人。ノースカロライナ州は、そのために州を売ったのだ。好都合なことに、国立アレルギー感染症研究所（NIAID）は、AZTが独占状態にある間に、HIVワクチン研究を開始するために、UNCチャペルヒルをその有力な研究機関と決定したのである。

つまり、91年から96年までがAZTのカバーストーリーである。その下には、ラルフ・バリックがHIVワクチンを作るために、コロナウイルスの遺伝子組み換えとキメラ作りを行っている。

[HIVワクチンを投与するためには、コロナウイルスと呼ばれるウイルスを包む小さなパッケージを手に入れる必要があるからだ。

つまり、HIVワクチンの資金はすべてこのプログラムに投入され、コロナウイルスをHIVワクチンの包材として使用することになったのです。これがそのモデルです。[これに関する論文は何百とあります。

COVIDの注射のどこかにHIVの断片があるのだろうか？ 答えは、もちろんあります。HIVの断片はCOVID注射に組み込まれている。数年前でも、Modernaでも、BioNtechでもない。これは何年も何年も前に設計されたものなのだ。

驚くなかれ、96年から99年にかけて、ラルフ・バリックはこの合成コロナウイルスとされるエンベロープをワクチンベクターとして兵器化し始めたのである。1999年になり、なんとバリッチとファウチは、私が親しみを込めてフランケンCoVと呼んでいるものを作り出したのである。

あれは何だ？ これこそ怪物、キメラだ。つまり、表面の糖鎖を変えたり、表面のスパイクタンパク質を変えたり、表面のオリゴマー化を変えたり、あらゆることをして、この物質を変化させることができるという考え方だ。

つまり、この... コロナウイルスの外殻を持つことで、欲しいものをどんな細胞にも取り込むことができるのです」。これが2002年の特許が興味深い理由です」。

## NIAIDが資金提供したヒトへの病原性を高める研究

次にマーティンは、2014年10月21日付けの、国立アレルギー感染症研究所（NIAID）からノースカロライナ大学チャペルヒル校への書簡を示し、バリッチの助成金I1077810-02がコロナ

ウイルスを含む機能獲得研究のモラトリアムの対象とみなされたことを宣言している。しかし、その1ページの下にはこうも書かれている：

「この助成金はすでに資金提供されているため、一時停止は任意であり、現在有効な予算期間が終了するまで、該当するGOF（ゲイン・オブ・ファンクション）研究を継続することができる。

言い換えれば、NIAIDはバリックに、モラトリアムを遵守するかどうかを決める自由裁量権を与えたのである。しかも、この助成金は競争性のない永続的な助成金であったため、実際には終了期限がなかった。つまり、バリックには無期限にゲイン・オブ・ファンクション研究を行うフリーパスが与えられたのである。

何のための助成金だったのか？ 生体内、つまり体内でのコロナウイルスの "ヒト病原性" を高めるためである。「この手紙のせいで、20億人が無力化されるか殺されることになるのです」とマーティンは言う。

## 誰が責任を問われるのか？

いいだろう。では、なぜバリッチやファウチやその他の人物を起訴して終わりにできないのか？ なぜなら、この研究プロジェクトは世界保健機関（WHO）のGAVIワクチン同盟の下に置かれており、WHO憲章の第5条第13項により、いかなる犯罪を犯しても捜査や訴追を受けることができないからである。スイスのジュネーブに本部を置くGAVIも外交特権を有しており、現地の当局が捜査することはできない。

「このプロジェクトをWHOの管轄下に置けば、あらゆる犯罪捜査や刑事責任から永遠に守られることを知っていたのです」とマーティンは言う。

しかし、それだけではない。2010年から2020年までが「ワクチンの10年」と宣言された。GAVIは、呼吸器病原体の「偶発的または意図的な放出」から身を守るため、2020年までに「世界共通のインフルエンザ・コロナウイルスワクチン」を世界的に受け入れることを盛り込んだ世界的なワクチン行動計画を策定した。マーティンが指摘したように、"release"は「積極的で意図的な言葉」である。それは"おっと"という事故ではない。

思い起こせば、持続的な資金を得るためにはメディアによる誇大宣伝が必要だと言っていたダスザックが、WHOの実験室流出説の調査責任者に任命されたのである。驚くなかれ、彼のチームは実験室流出説を裏付ける証拠はなく、結局のところ人獣共通感染症であると判断したのである。

## 止まらない犯罪

マーティンはまた、この犯罪はCOVIDの創設に限ったことではないと強調する。この犯罪は後を絶たない。彼は、2011年のマラリアワクチンの臨床試験で子供たちがどのように殺害されたかを説明する。ワクチン群の66人の子供たちが、対照群の28人と同様に、重篤かつ／または致命的な有害事象に見舞われた。しかし、対照群には生理食塩水は投与されず、他のワクチンのカクテルが投与された。

「臨床試験担当者たちの行動に対する責任を追及しようとしたとき、彼らが何と言ったと思う？ WHOの）メンバーである彼らの代表権の第13条（第5節）に言及したのだ。この条文には、『個人的な逮捕や拘留、手荷物の押収を免除され、公式の立場で話したり書いたりした言葉や行ったすべての行為に関して、あらゆる種類の法的手続きを免除される』とある。

それは世界保健機関（WHO）の憲章にもある。皆さん、それがマフィアなのです。

スイス国民にとって恥ずべきことだ。世界保健機関がこの場所に存在することは、スイス政府にとって恥ずべきことだ。なぜなら、スイス人は世界保健機構という組織犯罪を可能にし、実在の個人が生後3カ月未満の子供を殺害できるようにしているからだ..

私たち国民は、このような事態を許すわけにはいかない。私たちは [WHOパンデミック] 条約について話している。[条約ではなく、世界保健機関そのものについて話すべきだ。第5条第13項が憲章に残っている限り、彼らがどんな条約を通そうが関係ない。それは殺しのライセンスだ]。

マーティンはまた、WHOがどのようにして誕生したのか、そして1952年、当時のWHO事務局長ブロック・チショームが "WHOの役割は人口管理である" と宣言した経緯についても簡単に振り返っている。

WHOは人口抑制を担当する以外に、WHOのスポンサーである民間企業（ビル・ゲイツがその主要な一人である）のマーケティングおよび流通部門であり、同時に彼らには訴追免除が与えられている。

マーティンによれば、ゲイツの諸団体はWHOに多額の資金を提供しており、"法のあらゆる定義からすれば、（WHOは）完全所有の子会社である"という。

## タイムライン

スピーチの終盤、マーティンは世界的な大虐殺を企てる陰謀のタイムライン上の重要な項目をいくつか要約した：

- 2002年、アメリカの科学者がこの兵器を開発した。
- 2003年、米国疾病予防管理センターはこの兵器の特許を取得し、初めて商業展開した（SARS）。
- 2005年、mRNAスパイク・プロテインは生物学的「戦争を可能にする」技術であると宣言された。
- 2016年、米国科学アカデミー紀要は「SARS-Like」を発表した。

WIV1-COVがヒトに出現の兆し <sup>7</sup>WIV1-COVとは、WIVで作られた最初のCOVID様ウイルスのことである。その記事の中で、彼らはこのウイルスが放出の準備ができたと述べているだけでなく、放出するための最良の方法についても詳しく述べている。

記事の末尾には、ノースカロライナ大学チャペルヒル校がこの研究について、2つの異なる機関審査委員会の審査を行ったことも書かれている。1つ目は研究の倫理を審査するため、2つ目は機能モラトリアムの利得に違反することの倫理を審査するためである。これは控えめに言っても異例である：

*倫理委員会が『さて、これをやるべきか？ おそらく悪い考えだ。そして、誰かが『違法だ』と言い出して..... 『よし、違法なことをやるべきか』 『そうだ、やろう。こっちの連中は、違法なことをやって殺すのが倫理的だと言ったんだ人々』。それが起きて、この2016年の記事に掲載されている。"*

- 2019年9月18日、WHOと世界銀行が共同で設立した世界準備モニタリング委員会（Global Preparedness Monitoring Board）が発表した、<sup>8</sup>致死性の呼吸器系病原体（自然発生的なものであれ、偶発的あるいは意図的に放出されたものであれ）によるパンデミックが急速に拡大した場合、さらなる備えが必要となる」と警告している。

さらに、「2020年9月までの進捗指標」の項では、普遍的なインフルエンザワクチンやその他の治療薬に資金を提供し、開発するというドナー国や加盟国のコミットメントが明記された。<sup>9</sup>

「これは、世界保健機関（WHO）が呼吸器系病原体の放出を行うことを認めたということです」とマーティンは言う：

ところで、なぜこれが特に重要かという点、彼らは『致死性の呼吸器系病原体』と言っているからだ。彼らは人を殺すことを知っていた。だから致死性という言葉を使っているんだ

これは、刑事事件で『これは事故ではなかった。これは実際に計画された致死行為だったのだ』と言える証拠になる。彼らはそれがいつ起こるかを告げただけではない。結果発表の期限も告げられた。私たちは病原体を公表するつもりです。

2020年9月、世界は万能ワクチンを受け入れた。それは一応のテロリズムであり、癒着であり、ゆすりであり、犯罪的陰謀であり、そして.....殺人である。

だから指名手配のポスターがあるんだ... [ピーター・ダザック...ラルフ・バリック  
クジェレミー・ファーラー...クリス・イライアス...ゲブレイエス...ビル・ゲイツ、アンソニー・ファウチ、世界保健機関



組織、DARPA、国連、ロックフェラー財団、ウェルカム・トラスト、ゲイツ財団...。ロックフェラー財団、ウェルカム・トラスト、ゲイツ財団。

これらの個人は、恐喝法、独占禁止法、反競争法に違反し、地球上で知られている最大の世界的テロ行為を作り出すために結託し、計画的かつ殺意を持って2019年9月18日に実行する計画を発表した。

これは完全に計画的な行為だった。彼らは2011年にこうなると言った。テロ行為の共謀、取引制限、欺瞞的医療行為、価格操作、不正取引。これらの犯罪は、世界保健機関（WHO）が許しただけでなく、これらの犯罪を助長し、これらの犯罪に政治的な援護を与えたものである。

歳から55歳までの全死亡率は、生物兵器を注射された人の方が40%高い。この数字は下がっていない。この数字はどの管轄区域でも上昇している。そしてここが一番悲しいところだ。この数字は今後も増え続けるだろう。もし2011年の目標が達成されれば、その数は20億人に達するだろう」。

## ダメージは大きい

マーティンは、たとえ彼らが他の生物兵器を放たなかったとしても、目的の死者数は達成されるかもしれないと指摘する。なぜなら、彼らはmRNAショットにプソイドウリジンを使い、それが"ターボ・ガン"を引き起こしているからだ。

プソイドウリジンは体内のがん制御物質を抑制し、がん発生活性を促進する。

この注射は生殖もターゲットにしており、人口減少を望むなら重要なターゲットとなる。不妊症だけではない。前立腺がん、卵巣がん、子宮がんなどは、セックスをすることが難しくなり、したがって子供を持つことも難しくなる。

マーティンによれば、その証拠は明らかだという。どれも偶然ではない。これは陰謀だ。しかし、否定的な意味での陰謀論ではない。それは、60年近くにわたり、"公衆衛生"という虚飾に隠れながら、世界がかつて見たこともないような大虐殺を行い、そこから利益を得ようと画策してきた、特定可能なエージェントによる世界的陰謀なのだ。

**免責事項:** 本ウェブサイトの全内容は、特に断りのない限り、Dr. Mercolaの見解に基づいています。個々の記事はそれぞれの著者の意見に基づくものであり、著作権は著者に帰属します。

このウェブサイトに掲載されている情報は、資格のある医療専門家との1対1の関係を代替するものではなく、医療アドバイスとして意図されたものではありません。本サイトは、Dr. Mercolaとそのコミュニティの研究と経験から得た知識と情報を共有することを目的としています。Dr. Mercolaは、皆様がご自身で調査し、資格を持った医療専門家と協力した上で、ご自身の健康管理について決断されることをお勧めします。今回請求される購読料は、当サイトに掲載された記事や情報へのアクセスに対するものであり、個別の医療アドバイスに対して支払われるものではありません。

妊娠中の方、授乳中の方、薬を服用中の方、持病をお持ちの方は、本コンテンツに基づく製品を使用する前に、かかりつけの医師にご相談ください。

- 
- [1 デビッド・マーチン・ワールド](#)
  - [2 ファウチCOVID-19資料2021](#)
  - [3 現代のファウシアン・ドラマ：悪との駆け引き](#)

- [4 現代のファウシアン・ドラマ：悪との駆け引き 11ページ](#)
- [5 現代のファウシアン・ドラマ：悪との駆け引き 11ページ](#)
- [6 ランセット感染症 2018年2月号](#)
- [7 PNAS 2016年3月14日; 113\(11\): 3048-3053](#)
- [8 WHO 2021年10月26日](#)
- [9 危機に瀕する世界 9月19日号 8ページ](#)